



令和7年9月5日 第7号



明治5年創立 地域とともに

かしこく  
やさしく  
たくましく

令和7年度 前期学校評価の結果

上段 肯定的評価：Aであればまる・Bどちらかといえあればまる

下段 肯定的評価：Aであればまる

項目		具体的な取り組み	主担当	実現状況の達成基準	児童	判定	保護者	判定	教員	判定	分析	改善策		
かこい	①	話す聞く力 ・学力PTで、構成的グループエンカウンターに取り組み。 ・それぞれの学期に、国語の「話すこと・聞くこと」の重点単元を決め、聞く目的や視点を決めたり、交流後にもった考えを振り返りあったりする場を作る。	研究 主任 学務部	自分から友達のことを聞いたり話したりしている児童と聞く目的や視点を決めたり交流後にもった考えを振り返りあったりする場を設定している教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	93%	A	100%	A	・児童、教員ともに肯定的評価がAであり、取組の成果が見られた。 ・教員評価のAは73％であり、重点とする単元を絞って取り組んだために、児童の考えの深い質を伸ばしている。 ・検証問題ではA評価が1学年、B評価が1学年、C評価が4学年であり、目標とする正答率に達しない学年が多かった。	・1学期同様、聞く力の養成に向け、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を重点単元とし、指導を行う。 ・児童が自ら聞く意欲や目的をもつために、児童の考えの深い質を明確にするような発問をしたり手立てをとったりする。		
	②	家庭学習習慣化 ・家庭の手引きを改善する。各学年に応じた家庭学習の内容や方法のヒントを提示する。 ・レベルアップ週間を設け、保護者の協力を得る。 ・朝に思ひ、量・質を弾力的に扱う	教務 主任 学務部	家庭学習を自分から取り組んでいる児童・保護者が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	83%	B	74%	C	100%	A	・保護者評価がCであり、家族からの声かけが必要な様子が見られる。学年によって態度の出し方や量に違いがあったり、ゲームなど誘惑が多い中児童が「自分から」という姿勢に難しさがあると考えられる。	・2学期も「レベルアップ週間」を設け、児童自身が家庭学習の目標を決めて、自分からあきらめをもって家庭学習に取り組めるようにする。 ・3年生以上で自学レベルアップの取組として自学日を行い、いろいろな内容の自学に自分から挑戦できるようにする。 ・児童の実態に応じて、無理なく取り組めるように、宿題の量や質を調整する。
	③	伝え合い深める子の育成 ・伝え合う場や伝え合った後に自分の考えをまとめる場を設定する。 ・授業の中で、思考を深める手立てをとる。	研究 主任 学務部	授業の中で考えを伝え合い、自分の考えに活かしていると考えた児童と、伝え合い深める子の育成に向けた指導を行っていると考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	83%	B	100%	A	・肯定的評価の割合は、昨年度前期にほぼ同じである。 ・教員は、昨年度の積み重ねで、全職員で継続して指導している。 ・児童評価は肯定的評価がBであり、伝え合いを自分の考えに活かせていないと感じている児童が2割程度いる。	・伝え合う場や自分の考えをまとめる場を設定することは継続しながら、児童がより自分の考えを深めたいと考えるようになるためのスレを教員が考え実践していく。 ・伝え合いに役立てられないように、学びの振り返りや考えを整理する時間を設定し、学びの要素を自覚できるようにする。		
ふれあ	④	児童会活動 ・活動を計画的に配置し、指導する。 ・活動の様子の見える化を図り、児童に還元する。	特活 部	美川っ子集会、委員会活動、美川っ子議会で自分の役割を果たそうとしていると考えた児童と、指導を求めていると考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	96%	A	84%	B	100%	A	・肯定的評価がR6後期と比べて4％減っている。A評価だけを見れば、7％増となっている。 ・先生が各クラスでの活動の様子を見取って、適切な声かけをしていることが増加の要因と考えられる。 ・委員会の常時活動の設定があったと考えられる。	・引き続き、係活動の様子を見取り、声かけをしていく。 ・後期の委員会でも、児童の問題意識、必要感から常時活動を設定していく。
	⑤	道徳教育 ・校内研究の組織的な取り組み ・教育活動全体における道徳教育の推進 ・家庭・地域とのつながりの推進	道徳 推進 教員 学務部	自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりの活動に取り組んでいる児童、道徳教育が大切であると感じていると考えた保護者と、重点を意図して道徳の授業を行っていると考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	88%	B	100%	A	・R6前期に比べ保護者アンケートの肯定的評価の割合が22％増えている。昨年度からの保護者・地域との関係に道徳教育の成果が見られる。 ・児童アンケートについては、昨年度3月の道徳アンケートでは、同じ結果であった。各学年の結果を見ると、やはりつぎが見られた。	・昨年度から行っている取組を継続しながら、児童がより自分の考えを深めたいと考えるようにする。また、研究発表を通して教員が学び合っていく。		
たくまへ	⑥	体力の向上 ・授業に時間走や鬼遊び、ストレッチや鉄棒・倒立を意図して取り入れる。	特活 部	体をよく動かして体力がついてきていると考えた児童と、体力向上に向けて継続的な指導を行っていると考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	92%	A	100%	A	・R6後期より5％肯定的評価が増えている。 ・アンケートを取った日あたりは暑さが激しく、外での活動より制限されていたと思うが、この数値といふことは、体育の時間の活動が充実しているということが見て取れる。	・2学期以降も引き続き、「体育の学習」を活用しながら、体育の時間の充実を目指す。 ・秋ごろを自安に、体育委員会の企画した活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を提供する。		
	⑦	自己指導能力 ・学習指導の中で、児童が自己指導能力を高められるよう、児童をほめたり、認めたりしていく。 ・生徒指導の視点から自分の重点項目を選んで、教師同士が手立りの交流をすることでスキルアップを図る。 ・スクールレディPDSの項目について、児童が目標をもって取り組めるようにする。	生徒 指導 主事 生徒指導部	自己指導能力を高めたいと考えた児童と、自己指導能力を高めようとして指導していると考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	90%	A	100%	A	・保護者や教師など、子供と関わる大人は、児童の取組を褒めたり認めたりすることができている。また児童も、90％と大変多くの児童が納得し、自分に向けて自分から行動することができている。	・2学期の目標を決める際に、キャリアパスポートに戻って1学期の自分を振り返りたりしながら目標を立てるようにする。また、その目標を達成するためのどのような行動が必要かについても考えるようにする。 ・引き続き大人は児童のよいところを褒めたり認めたりしていく。		
業務改善		⑩ 業務改善 ・昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。 ・月1回の全体定時退校日とセルフ定時退校日を設定する。	教務 部	成果指標を達成したと考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	92%	A	92%	A	・月別平均昨年比4月:1236減、5月:328増、6月:643増、7月:5055減、4～7月320増、全体的に減っているが、時間外勤務時間の多い職員が固定化している。意識改革が必要と考えられる。	・月1回の全体定時退校日とセルフ定時退校日を9月、10月、11月12日設定する。 ・引き続き、昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。		
児童評価					児童	判定	保護者	判定	教員	判定				
白山市学校評価共通項目	⑪	学共① ・自己肯定感の向上 ・安定した学級、学年経営 ・組織的ないじめ未然防止、早期対応 ・互いの良さや存在を認め合う活動の充実	生徒 指導 主事 生徒指導部	学校で楽しく過ごしていると考えた児童・保護者、教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	89%	B	97%	A	100%	A	・児童は豊穡な学校を楽しんでいる。いじめ防止に関する取組を2学期に行う。 ・学年別に見てみると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・⑩と関連するが、友達から嫌なことを言われたり意地悪をされたりするが、安心感を感じられない原因であると考える。	
					A	B	69%	B	54%	B	67%	B		
	⑫	学共② ・授業力向上 ・校内研究の組織的な取り組み	学務 部	ねらい(育みたい資質・能力)を明確にし、子供一人一人が「わかった」「できた」を実感できる授業を行っていると考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	97%	A	94%	A	100%	A	・R6後期にほぼ同じ結果であり、児童が授業を通して「わかった」「できた」を実感していると考えられる。 ・保護者評価については、子供の意見を聞き反映していると考えられるが、そのほかには実生活の経験により、本校の授業や学習について理解を得られていると考えられる。 ・児童も保護者も概ね学校に安心感を感じている。 ・学年別に見てみると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・⑩と関連するが、友達から嫌なことを言われたり意地悪をされたことが、安心感を感じられない原因であると考える。	
					A	B	63%	B	33%	B	73%	B		
⑬	学共③ ・組織的ないじめ未然防止、早期対応 ・安定した学級、学年経営 ・自己肯定感の向上	生徒 指導 主事 生徒指導部	学校で安心して過ごしていると考えた児童・保護者、過ごせるよう指導していると考えた教職員が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	A +	B	87%	B	95%	A	100%	A	・友達を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行う。 ・学年別に見てみると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・⑩と関連するが、友達から嫌なことを言われたり意地悪をされたことが、安心感を感じられない原因であると考える。		
				A	B	57%	B	58%	B	83%	B			

## **R7 前期学校生活アンケートより**

### **「かしこく やさしく たくましい 美川っ子」を育てるための改善策**

#### **かしこく【分かりやすい授業を目指して】**

- ・聞く力の育成に向け、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を重点単位とし、指導を行います。
- ・教師主導ではなく子供主体の授業を全職員で実践し、児童が「わかった」「できた」を実感できるようにします。

#### **やさしく【学校が楽しい児童100%を目指して】**

- ・友達を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行います。
- ・大人が子供を意識的に褒めたり認めたりする場面をつくり自己肯定感の向上を目指します。
- ・昨年度から行っている取組を継続して、児童がより自分の考えを深めることができるような道徳教育を推進していきます。

#### **たくましく【心身ともに健全な児童の育成を目指して】**

- ・体育委員会の創造的活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を増やします。
- ・自らの2学期の目標を達成するために、どのような行動が必要かについて考えさせる指導をします。

令和7年度も本校では、学校目標を「社会とのつながりの中で、学力そして豊かな心とからだをそだてる」とし、全教職員で「かしこく やさしく たくましく」を目指す子どもの姿として日々指導しています。

アンケート結果や皆様から頂いたお言葉ご意見を真摯に受け止め、今後の指導にいかしていきます。子どもの健やかな成長のためにも家庭、地域、学校が連携していくことが大切だと考えております。今後も教育活動に対するご理解ご協力をお願いいたします。